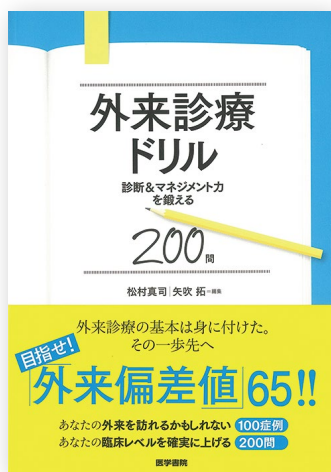




外来診療ドリル 診断&マネジメント力を 鍛える 200問

松村真司, 矢吹 拓=編

定価：本体 4,200 円＋税
B5・212 頁／医学書院／2016
[ISBN978-4-260-02505-8]

『外来診療ドリル』完全制覇への道

評者 鈴木富雄 大阪医大病院総合診療科科長

『外来診療ドリル』。「ドリル」と名前がついたこの本は、気軽に読めるようで実は極めて骨太の本である。今回書評の依頼をいただいたので、ひとまず問題を解きながら、すべて通読してみた。最初は「1 日 20 問、10 日で終了できる。これは軽い」と思っていたが、大きな間違いであった。問題を解き始めてみると、「うーん、なるほど!」「そ、そうだったか……」の連続で、なかなか先に進めない。1 回目を終了するまでに結局 2 カ月近くもかかり、しかも正答率は大学の進級試験であれば、「なんとか合格点はとれたが……」という体たらく。得点の公表は、私も立場があるので、どうかご容赦を……。

あまりの不出来ぶりに自分自身もショックを受け、「このままでは終われない」と、再度挑戦。もう一度、初めから終わりまで問題を解いてみた。「今度は 2 回目だからスイスイ行こう」と思っていたが、これまた今ひとつで、やはり同じところを間違える（笑）。結局 2 回目も 1 カ月以上かかってしまった。ただし、1 回目はとにかく問題をこなすだけであったが、2 回目は疑問に思った部分に関して、記載文献を参考に自分でも調べてみる余裕ができた。そのうえで解説を読み直してみると、コンパクトにまとめられたその記載の素晴らしいさに改めて納得することができた。

ベテラン臨床家の“私だけの 1 冊”に

この本の持ち味は、その問題の多様性と、臨床家の隙を突くような絶妙な難易度にある。また問題と解説がそれぞれ 1 ページの表と裏に収められ、非常に使いやすい。記載文献の数と選択も適切である。比較的簡単に正解できたとしても、ぜひ解説文を一読いただき、興味を持たれた部分やややふやな分野に関しては、記載文献を参考に自分で少し調べてみることをお勧めする。ある程度余白もあるので、書き込みもできる。ドリルはドリル。下線と付箋と書き込みで、自分だけの 1 冊にしてこそ価値がある。

このドリルは、総合診療医や家庭医などのジェネラルな分野の専門医をめざす後期研修医のトレーニングにも最適であるが、腕に覚えのあるベテランの臨床家の先生にこそ、ぜひチャレンジしてほしい。まずは、その鼻ど柱が折れること間違いない。7 割とれれば素晴らしい。8 割とれればテレビアン。9 割とれればレジェンドの域と言えよう。

ちなみに私は、「ここまできたら」との思いで 3 回目にチャレンジしてみた。今度は 1 週間で終了し、ようやく全問正解。書評の依頼をいただいてから、4 カ月目にしようやく完全制覇。下線と付箋と書き込みで手垢にまみれたこのドリルは、私の大切な 1 冊となった。

G